

## 重点施策 4 教育環境条件の整備充実

### 【施策方針】

- 子どもたちにとってより望ましい教育環境の実現のため、平成30年2月に策定した八幡浜市学校再編整備第二次実施計画に基づき、小・中学校の学校規模の適正化による望ましい児童生徒数による教育効果の向上を図る。
- 科学的な知識、技能及び創意工夫の能力を養うため、理科教育備品の整備を図る。また、引き続き、教材、管理備品、学校図書などの学習環境の整備を図るとともに、健康及び環境保全上の効果を増進する。
- 市内の学校施設の多くは築後30数年が経過し、雨漏り、施設の老朽化、内外装の損傷が著しく、早急な対応を迫られている。また、安全・安心な教育現場を確保するため、耐震指標I S値0.6未満の非木造の学校施設の耐震化を推進する。
- 経済的な理由により就学が困難な児童生徒等を支援するため、就学援助事業及び育英事業の充実を図る。

### 【実施状況】

#### (1) 主な施策・事業

- ① 学校再編整備第二次実施計画の推進    ② 学校施設の整備充実
- ③ 教育機器の整備充実    ④ 施設の耐震化推進    ⑤ 長寿命化改良事業の実施
- ⑥ 就学援助事業及び育英事業の充実

#### (2) 施策・事業の実施状況

##### ① 学校再編整備第二次実施計画の推進

ア 園児、児童、生徒数の減少に伴い、学校の小規模化が年々進行しており、学級数の減少や複式学級編成で取り組む学校がある現状となっている。また、校舎等の耐震化、施設設備の経年劣化問題などを抱えており、安全・安心な教育環境の整備・充実を図ることが継続の課題であり、今後も早期解消に向け取り組んでいく。

イ 八幡浜市学校再編整備第二次実施計画を基に、統廃合対象校となっている川上小学校、双岩小学校、松柏中学校及び松柏中学校が進学先となる江戸岡小学校と千丈小学校の各保護者を対象に説明会を実施した。それぞれ地域における問題点も違うため、保護者の意見に寄り添いながら、継続して理解を求めていく。

真穴中学校は、閉校準備を円滑かつ具体的に推進するため、真穴中学校閉校準備委員会を計5回開催した。令和3年3月28日「八幡浜市真穴中学校閉校記念式典」が行われ、翌月4月1日に八代中学校へ統合した。

##### ② 学校施設の整備充実

ア 神山小学校体育館屋上防水等工事 6,087千円、宮内小学校体育館天井材撤去工事 6,871千円等の営繕工事を行った。

- イ 小学校遊具改修工事（白浜小、千丈小、日土小、真穴小、川上小、双岩小、喜須来小）5,500千円を実施し、緊急性の高い遊具を改修した。
- ウ 江戸岡小学校トイレ洋式化工事590千円、神山小学校トイレ洋式化工事627千円、保内中学校トイレ洋式化工事424千円を実施した。なお、今後は長寿命化改良工事等の大規模工事に併せて洋式化を推進していく。
- エ 小・中学校にAEDを新たに整備し、各校複数台設置した。（小学校11台1,870千円、中学校6台1,012千円）

③ 教育機器等の整備充実

- ア 理科教育備品の整備（中学校）3,430千円（1/2国庫補助）
- イ 教材・管理備品・学校図書等の整備149,229千円（前年度16,877千円）  
（小学校）104,129千円 （中学校）45,100千円 （アの理科教育備品を除く）

④ 施設の耐震化推進

- ア 松蔭小学校木造校舎改築工事实施設計3,135千円（小学校管理費：2,372,397円、子育て支援課 放課後児童健全育成費：762,603円）を行い、令和3年度に木造校舎改築工事に着手する。
- イ 松柏中学校特別教室移設工事9,597千円を行い、特別教室を非木造校舎に移設することで、耐震性のない木造校舎を未使用化した。

⑤ 長寿命化改良事業の実施

- ア 八幡浜市学校施設長寿命化計画  
学校施設の総量最適化、維持管理費用や更新費用等を踏まえたライフサイクルコストの縮減、財政負担の軽減・平準化を図ることを目的として策定した。
- イ 小・中学校長寿命化改良事業  
長寿命化計画（実施計画）に基づき、計画的に施設の長寿命化を図っていく。  
令和2年度は、喜須来小学校校舎長寿命化改良・体育館大規模改造事業施設計8,558千円を行い、令和3年度から工事に着手する。

⑥ 就学援助事業及び育英事業の充実

- ア 就学援助事業  
要保護・準要保護児童生徒に対し、学用品、修学旅行等の費用の支給を行った。  
また、新入学児童生徒に対して支給している「入学準備金」については、平成29年度新入学児童生徒分から、入学前の1月～3月に支給を行っている。
- イ 育英事業  
八幡浜市育英会奨学資金の状況  
奨学資金貸与者7名、貸付額1,836千円  
返還者76名、返還額11,686千円

【事務事業点検評価委員意見】

- 学校施設の整備充実は急務である。それに加えて、長寿化への改良や耐震化も求められている。限られた財源であり、効果的に進めるために、学校再編を含めて対応されている。一

方で、学校は被災した際の避難所としての機能を担っている場でもあるとともに、いろいろな身体的個性をもった子どもたちが日々生活する場でもある。財政面での負担は大きいですが、学校環境のバリアフリー化を今後も積極的に図っていただきたい。

- 教育機器の充実は、子どもたちの学びをより良いものにするために不可欠である。IT関連機器のハード・ソフト両面での支援はもちろんのこと、一人一台配備された情報端末についても、教員研修を積み重ねたり子どもたちへの啓発を続けたりするなど、十分に活用していただきたい。また、この状況であるからこそ読書を奨励したい。そのために、学校図書館の充実にも積極的に取り組んでいただきたい。
- 現代社会の大きな課題の一つは、社会人となった若者の多くが抱える奨学金返済が過重負担となっていることである。これが様々な面で若者の社会生活において悪影響を与えており、キャリアプランの変更を余儀なくされる若者は増加している。家庭の経済的格差がますます大きくなっている現状を踏まえて、奨学金をふるさと納税の生かし方の一方策として、奨学制度を貸与型から給付型に転換したりするなど、抜本的に再構築を検討する良い機会ではないだろうか。

#### 【自己評価】

- 次代を担う子どもたちを育てていく教育環境、特に児童生徒に生きる力を育み、切磋琢磨できる教育環境づくりのため、懸案事項の解消に努めながら「学校再編整備第二次実施計画」を推進していきたい。
- 学校施設の耐震化についてはほぼ完了したため、今後は老朽化対策として順次長寿命化改良事業に取り組んでいきたい。また、有用な補助金等を活用し、いろいろな身体的個性を持った児童生徒が問題なく学校生活を送るためや、災害時に高齢者等が避難する避難所として機能するように、防災担当部局とも協力し学校施設の機能強化を図っていくことも今後の課題である。厳しい財政状況の中ではあるが、引き続き安全・安心な教育環境の保持に努めたい。
- 「GIGAスクール構想」の推進に伴いハード面での整備は整いつつあるので、一人一台端末環境の下で、教職員や児童生徒がICTを日常的なツールとして活用できるよう、指導方法についての研修等を継続的に実施したい。また、端末の持ち帰り学習を含めたICT機器の適切な活用について、情報リテラシー・情報モラル教育等を充実させ、市教委、学校、児童生徒及び保護者の共通理解の下で推進していきたい。  
学校図書に関しては、継続的に各学校に予算を配分し一層の充実を図りたい。
- 令和2年度から高等教育無償化制度及び私立高校の授業料実質無償化制度が開始されるなど、国による教育費の支援の拡充に伴い、貸与型奨学金の新規貸付を停止する県内自治体もある。本市においても、貸与型奨学金制度のあり方について、今後の情勢や他市町の状況を注視しながら、見直しや奨学金返還支援事業についても検討していきたい。